

武漢大学留学レポート

医学部 5年 五十嵐江美

武漢大学、各講座で研究するコースと医学部の講義を取る教育コースと2つどちらも、とお願いして衛生学講座に配属させていただくと同時に留学生向けの中国語の講義を受講しました。衛生学講座では到着4日後より学内で調査・分析を行うとの話がでていましたが、Prof. Tanが多忙のため、プロジェクトが何回も変更となり、結局加わることはできませんでした。また、教授が厳しいとのことで、土曜日まで研究室に行く必要があり、学生もとても忙しそうでした。講座ではSPSSを使った解析ができる前提でProf. Tanよりプロジェクトを割り当てられるようだったため、中国語で書かれたSPSSの入門書と首っ引きになりながら、現地の学生に教えてもらいながら、どのように解析するか練習しました。

また、Prof. Tanがアメリカに仕事で行ってしまった間も、学生から衛生統計学教室に日本で学んだ先生(Dr. Ma Lu)がいると聞き、連れて行ってもらいました。先生にお会いできたことで、英語の本を貸していただき、また、SPSSの講義や実習、衛生統計学の講義にも出席することができました。

先生の講座が担当の講義ということで、2度中国人学生のクラスに混ぜていただきましたが、先生の講義ではほぼ全生徒の発言が活発なことに驚かされました。他にも、衛生統計学教室の宇教授の講義(衛生統計学)にも出席しましたが、講義は基本的に英語で行われており、どんどん英語を使おうという姿勢に驚きました。一方で、日本同様、講義中に別の講義の内職をしている生徒や携帯をいじっている生徒もおり、どこも変わらないという印象も受けました。

たまに一緒にご飯を食べに行くと、日本の話や中国の話になったりしましたが、キティちゃんや日本のアニメ、化粧品といった日本のものの話や、中国文化について話しました。

海外の話をしていて「今までどこに行ったの?」と聞かれ、「アメリカ、カナダ、デンマーク、台湾、中国…」と言ったとき、強く「台湾は中国だよ」と言われたことに衝撃を覚えました。また、北欧の話をしていたとき、私はあまり経済について詳しくないため無知だったのかと思いますが、「スウェーデンは世界一豊かな国でしょ」と言われ、そのような世界観があるのか、とも驚きました。

他にも、家の話を聞かれた時「日本では家は親からもらうの?自分で買うの?」と聞かれ、自分で買うという話をしましたが、「中国では家の値段は日本と同じくらいであるが、70年で国の

保有に戻ってしまうので、不公平だと思っている」という話を聞きました。

また、普段生活している武漢大学の医学部キャンパスも十分広く感じましたが、メインキャンパスに連れて行ってもらった時、図書館の広さや蔵書の充実、学生の熱心さに驚きました。中国人というと、どうしても観光地での騒がしいイメージが強かったのですが、ほぼ満席の図書室で誰一人音も立てずに勉強している姿に鼓舞されました。

また、昨年度福島医大にいらしていた先生が所属していらっしゃる、生殖医学中心(Reproductive Medical Center)を半日ほど見学させていただきました。

武漢大学人民病院を見学しましたが、まず病院に到着して驚いたのは、混雑具合でした。入口から人がごった返しており、案内係の方も引っ張りだこで大変忙しそうでした。(また、受付やエレベーターの中の係員の方の制服が赤色なのも、日本にはない感覚だと思いました。)

病院の建物自体は去年できたばかりということで、大変新しい印象を受けました。大変大きな病院で手術室が2つのフロアに48個もあり、手術の件数も数千件と驚くような数でした。

一方で、廊下にもベッドが所狭しと並べられ、患者数の多さと環境の劣悪さが伺えました。(廊下で処置したりするようで、プライバシーもないように思えました。)

中で大学院生の方に人工授精技術の簡単な説明をしていただいた後、人工授精の実験室の内部を見学させていただきました。人工授精自体については、3年前まで月80組ほどであったが、年々増加し、去年は月100~110組程度行っている途のことでした。

また、もう一つ驚いたことはセンター内の女性医師の多さでした。今回の見学でお会いした医師は皆女性で院生の方以外は皆結婚されており、見学後の昼食の際にも、「日本ではなぜ女性医師が少ないのか」と質問されました。

また、4月17日にはProf. Daiのもと日中学生交流会が開かれ、20名ほどの中国人学生と10名ほどの各国(タイ・カナダ・アフリカなど)からの留学生にプレゼンテーションを行いました。示されたテーマは「医学教育制度」ということで、学生さんの中国での制度についての発表を聞いた後、日本側からは「日本」「福島」「東日本大震災」「医学教育制度」について4名それぞれプレゼンし、相互に意見交換しました。

私は「医学教育制度」について発表しましたが、日本の医療の

特徴について、ホスピタリティや国民皆保険制度の功罪を再認識できたことが大きな収穫でした。

中国側の発表で面白いと思ったのは、現在「従来型コース」と「改革コース」に別れており、「改革コース」はシカゴ大学の制度をモデルにした、基礎と臨床の結びつきを強めたコースで、PBLなど日本と同様のこともあれば、年度の終わりに実際に病院に行き、その年度に講義で学んだことが実際の臨床の場できに役立つかということを見学する、という実習があるそうで、とても面白そうで、低学年の学生の意欲を継続するにも有意義であろうと感じました。

意見交換の際に面白かったのが、「日本では医師が殺されることはないのか」「解剖が怖いけれど、日本で先生は解剖の前に何か教えてくれるのか」「日本で学位を取る意義は何か」といった3つの質問でした。

日本では医師は訴訟を起こされることはあっても命の危険までには至らないことが多いと思います。この質問をしたのは台湾出身の学生でしたが、「台湾はどうか？」と Prof. Dai に質問され「ほぼないと思います」と答えていたのが印象的でした。また「解剖が怖いけれど…」という質問に対しては、私は解剖実習の際に毎回黙祷したことの意義を感じているので、その事を伝えました。しかし、どうしても宗教関係ない黙祷の意味がうまく伝わらず、仏教だと思われてしまいました。Prof. Dai いわく、中国ではそのような宗教を大学に持ち込むことはできないため、それはできないと仰っていましたが、学生さんは中国でもできればいいのに、と言っていました。

また、「学位を取る意義は？」と聞かれ、私自身学位を取る予定ではありますが、その意義を明確に答えることが難しく、中国の大学システムの方が学位や成績など明確な指標を持って評価していると感じました。

また、Dr. Ma Lu に最後に挨拶に伺った時、中国と日本は戦争で若い世代の対日感情は決してよくないが、気にせずに交流を深めてください、と言われたのが印象的でした。また、中国人は日本人の先生・年上の方に対する尊敬の念や仕事の丁寧さを学ぶべきであると話していました。最近の中国では、名前で先生に直接呼びかけたりすることもあるそうです。

最後に、中国人学生と話していて一番気付かされたのは、真面目さです。日本人も真面目だと言われましたが、中国人学生は海外旅行などする暇がないほど大学の講義が詰まっており、海外旅行の話をするとなんてそんなに時間があるのと言われました。

また日本の良いところを再認識できた点も大きな収穫でした。中国でのネット規制や共産党体制、医療の違いを身をもって体験することで、改めて日本は良いところだと感じました。

最後に、今回留学するにあたり、武漢大学基礎医学院院長 Dr. Dai、衛生学講座 Dr. Tan そして身近に相談に乗っていただいた Foreign Affairs Office の Ms. Daisy、福島医大留学担当の福島教授ならびに錫谷教授、挾間教授、企画財務課高橋様、学生課嶋原様ならびに多くの先生方・職員の方々のお力添えをいただきました。今回の留学は皆様のお力添えなしには成功することはありませんでした。心より御礼申し上げます。